



白の彼岸花

〜アシジの聖フランシスコ①〜

田舎の田園のあぜ道に夜汽車の如く咲く赤い彼岸花。彼岸花と言えば「赤色」を連想する人がほとんどではないだろうか。

今、我が家の庭にも赤い彼岸花があちこちに咲いている。秋の彼岸の頃に咲くことから「彼岸花」と呼ばれるようになったらしい。

仏教の世界では「曼珠沙華」と呼ばれ、白い曼珠沙華は見る人が悪行を離れるという展開の世界とされる。

彼岸花は「まず花が咲き、後から葉っぱが伸びる」という通常の

今、老いを楽しんで生活するための一つとして、聖人伝の伝記を読み、少しでも残された人生が聖なるものに近づくように努力している。

そのせいかもしれないが、庭の白色の彼岸花を見て「アシジのフランシスコ」を連想した。人間に人工的な品種改良は許されない。しかし、自らの意志で生活を悔い改め、新しい人間に変わる可能性がある」と「アシジの聖フランシスコ」は我々に訴えているような気がしてならない。

映画にもなった「ブラザー・サン・シスター・ムーン」が大ヒットし、カトリック以外の人にも知られることになった。

「アシジの聖フランシスコ」は豪商の子ともして生まれ、若い頃は自由奔放で快楽を求め、騎士になりたいと



チマブー工作フランシスコと天使の一部から

思い、戦場に赴いたが戦場で深い傷を負い入院生活を送ることになった。そして入院生活の夢の中でキリストと出会い、回心してキリストに従って生きる決心をした。持ち物は貧しい人に加え、粗末な服を着て生活しながら、自分と同じ回心した生活を送る同志を集め、清貧と愛に満ちた修道会「フランシスコ会」を設立する。

赤色は意志と情熱。色だけとは言え、清楚な白の彼岸花同様「アシジのフランシスコ」のように人間も回心して変わることが出来るのだと確信する。もちろん、人間の人工的な品種改良は許されない。しかし、人の手は

私に「アシジの聖フランシスコ」を見て、私に「アシジの聖フランシスコ」を連想させたのは、その一つの証拠だというのか。

私に「アシジの聖フランシスコ」を見て、私に「アシジの聖フランシスコ」を連想させたのは、その一つの証拠だというのか。



赤の彼岸花や鶏頭に交って咲く白色の彼岸花

赤の彼岸花や鶏頭に交って咲く白色の彼岸花

私に「アシジの聖フランシスコ」を見て、私に「アシジの聖フランシスコ」を連想させたのは、その一つの証拠だというのか。